

「種山ヶ原はいま⑯」

東菊・レンゲツツジに代わり、ヤマユリ・アヤメ・ウバユリ・山アジサイが咲き、種山ヶ原も夏に入ろうとしています。山アジサイの花の色は「澄んだ青い空の色」で格別です。やがてピンクになってきますが。

若い鹿にも角が生え始め、かっこうつけて闊歩しています。困ったのはイノシシです。ヤマユリの根を掘って食べています。人間が食べてもおいしいのだから分かるのですが……。でも、なぜウバユリの根は食べないのでしょう。

賢治の森に行く途中の大森林道に毎年モリアオガエルが産卵する。それもイタドリの葉っぱである。確かにイタドリは3m以上になるから安心なのだろう。しかし、その下の水たまりは、いつ枯れるかわからないのです。でもどうにか生きている。野生は強い。



種山ヶ原—北上平野—須川岳



賢治の森詩碑「牧歌」—北上平野



モリアオガエルの産卵



種山ヶ原—北上平野—焼石

6月29日 物見山の東菊も種になって飛んでいったので、草刈りをしました。



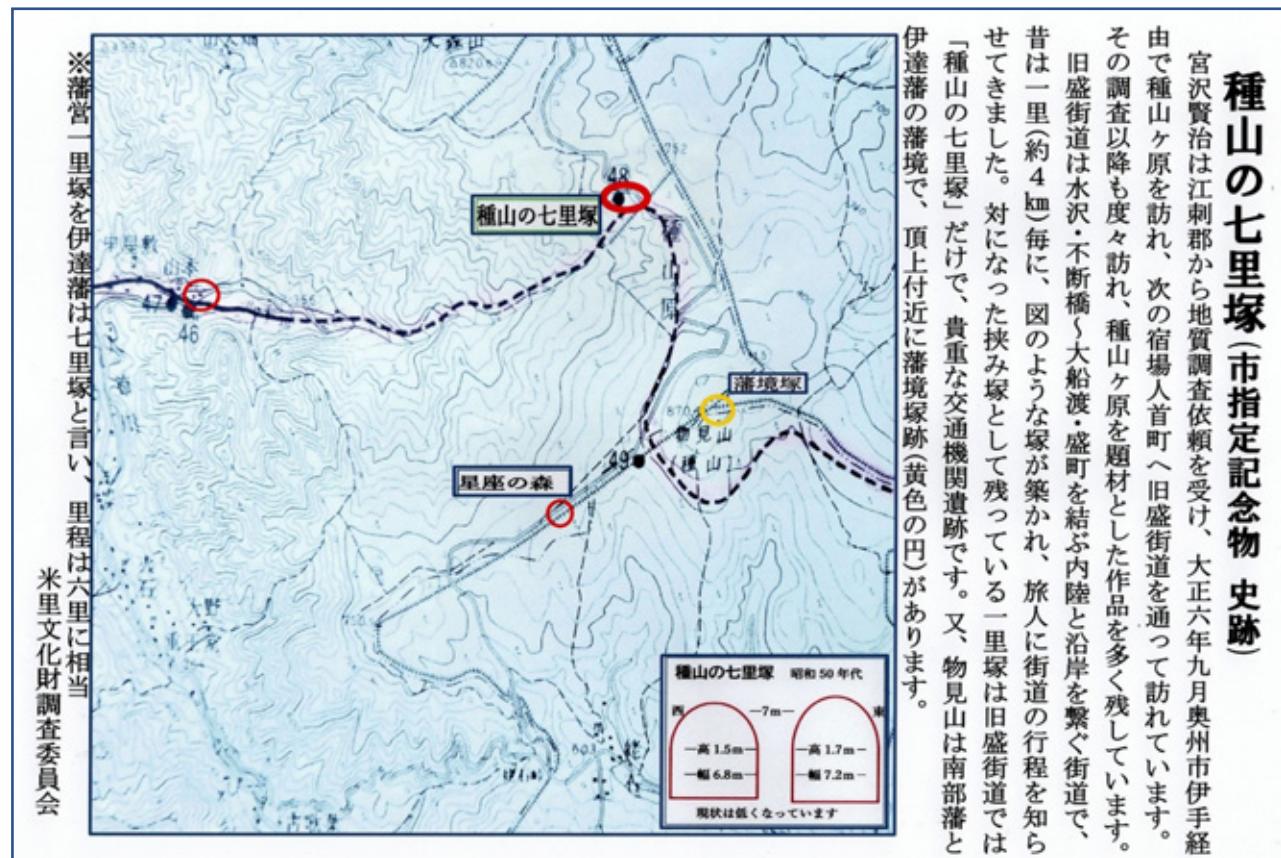
7月24日の大雨で登山道が壊れ、修復に努力するも

市が対応してくれるらしい。シーズン中でもあり、急いで欲しい。急遽応援してくれた二人に多謝



「種山の七里塚」<宮沢賢治も盛街道を通って人首町に行ったらしい>

昔の盛街道には七里塚が築かれており、古地図を見るとほとんどが対になっている。しかし、道路拡張等でほとんどが壊され盛街道で残っているのは「種山の七里塚」だけである。下の図のようにかなり高い土盛りの塚であったが、昭和50年頃の調査で1.5mと1.7mと低くなり、更に放牧地の中にあるために牛に踏まれて更に低くなってしまった。貴重な遺跡でもあり、市当局にお願いしたところ、管理している「江刺畜産公社」の方に牛を入れないように電牧柵を作っていたいただいた。ありがとうございます。



「追分石」

昔、街道の分かれ道に旅のために立てられた道標で、地図のない時代には貴重だったでしょう。種山ヶ原にも一つ立っています。賢治の森に行く遊歩道入口の近くの道路脇に立っています。

右ハ小友道 左ハ人首道



次回は米里を通る街道とそこにある追分石を紹介します。

7月23日種山ヶ原の大雨で人首川ピンチ

人首町はそれほどの雨でなかったのですが、種山ヶ原が大雨で人首川は濁流に。牧草地なので、一気に流れ落ちるのです。10年程前も種山ヶ原が大雨で下川辺の田んぼが冠水したことを思い出します。今回は冠水せず、よかったです。



『種山ヶ原の草花』 ヤマユリの香りが高原を流れています。



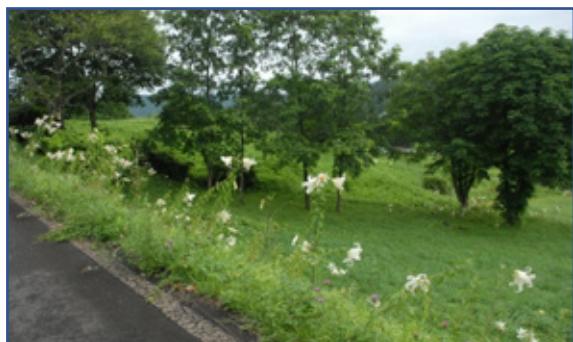
この地区の人々は県道の草刈りでも、畦道の草刈りでもユリの花は残してくれます。木細工地区民の県道草刈でも守ってくれていました。しかし、賢治の森ではツツジの木の中にあるユリだけはきれいに花を咲かせますが、ほとんどカモシカの餌食になっています。今年は一つでいいから咲いて欲しい。家の周りにユリをいっぱい咲かす熊谷さん宅では、イノシシがユリの根を土を掘つて食べているのです。かわいそうです。ゆり根はおいしいからな。私たちも道端の草刈りの時には、草花に気を遣っていますよ。



『熊谷さんチのユリとあじさい』



見晴らし台も全てご主人の手作り。2年前に亡くなったお父さんもひょうたん細工の名人でした。花好きの仲良し夫婦とおばあさんの住む一家です。



オニヤンマの羽化 幼い頃早起きし羽化したばかりのオニヤンマを勲章のように胸につけて自慢したことが懐かしく思い出されます。

最近気づいたことで、草刈りをしていると、なぜかオニヤンマが機械のそばでホバリングして、逃げようとしません。

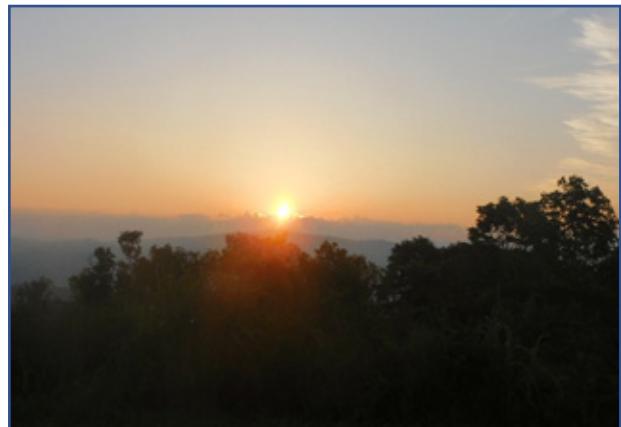
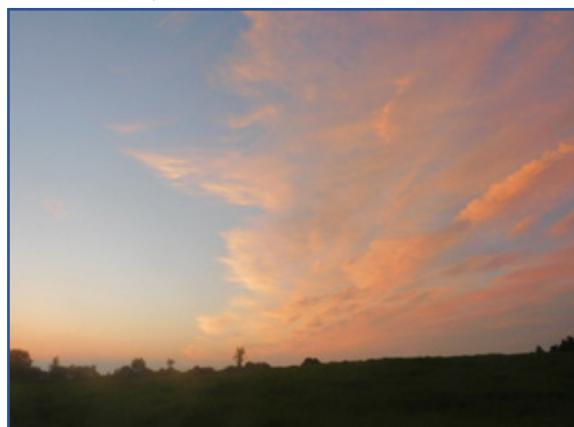
不思議に思って、仲間に聞くと同じ体験をしているようだ。音に反応するのか、又草刈りで虫が飛び出すことを学習したのか。



種山ヶ原の夜明け 7月28日朝

午前3時30分頃起きだし、明けの明星金星を目指して種山ヶ原へ。金星はきれいに輝いている。少し遅いので急いでいくと空にはハヤブサがホバリングしながら獲物を狙っている。

いよいよ夜明けだ。



朝日指す草原・物見山・アメダス

